



参道より旧正宮内部を撮影したもの。手前は、外玉垣南御門。奥に見えるのは、内玉垣御門。



新正宮(外宮)の鳥居と外玉垣南御門



式年遷宮記念せんぐう館。この日は、外のステージで奉祝奉納行事として「獅子舞」や「天宮神社十二段舞楽」が奉納された。



別宮荒祭宮の新旧社殿

# 伊勢神宮式年遷宮 実地調査を実施

調査団長 前日建連専務理事(建築本部担当)  
**大久保和夫**  
Kazuo Okubo

本年、一、三〇〇年以上も前から概ね二〇年毎に行われてきた伊勢神宮式年遷宮が挙行されましたが、日建連建築本部では、十月十八日、会員企業の寺社建築等に携わる三八名の参加を得て、神宮式年造営庁の中村光彦技術総監のご指導の下で、実地調査を実施しました。

この調査は、旧建築業協会が建築着工前の平成二十二年六月に行った、伊勢神宮直営の木工作业所「山田工作所」等の調査に続くもので、新旧の社殿が共に建ち並ぶ、二〇年間に数カ月という僅かな期間をとらえて実施したものです。

最初に、内宮の新御正殿を参拝しました。式年遷宮が行われる本年の

参拝者は、過去最大となり、一、三〇〇万人に達する見込みだと報じられています。

内宮御正殿の近くの林の中、別宮荒祭宮があり、ここでは、旧社殿と新社殿が並び、新造された社殿の木肌、切り整えられた萱の屋根、金箔を貼られた金具が調和をもって整えられている様子と、これらの全てが二〇年の経過を経た状況を見ることができました。

内宮参拝の後、第三六回BCS賞受賞の「おほらい町・おかげ横丁」を通じて神宮会館に向かい、中村技術総監より「伊勢神宮式年遷宮と伝統文化・技術の継承」というテーマで、伊勢神宮と式年遷宮、その建築



神宮式年造営庁、中村技術総監の講演

としての価値、環境的価値及び伝統文化・技術・技能の伝承と継承の今日的意義についてご講演をいただきました。

さて、いよいよ外宮の新・旧御正殿の参拝・調査です。まず、本年度第五四回BCS賞を受賞した「式年遷宮記念せんぐう館」で外宮殿舎の配置、原寸大模範、全面的に更新されるご装束及びその製作過程等を見学した後、外宮御正殿に向かいます。

新御正殿を参拝の後、ご誘導頂いて旧御正殿に向かいます。建物の性格上、内部の写真撮影はできませんでしたが、「唯一神明造」

という、日本古来の稲倉に起源を持つといわれ、一、〇〇〇年以上ほぼそのままの状態而建て替えられてきた建築物です。参加者は食い入るように全体像と詳細部分を目に焼き付けていました。

旧御正殿の屋根や柱・壁は二〇年の歳月を経て、四季の雨風、温度差、周辺の木々や苔等の影響を受けて自然の風景の中に溶け込んでしまっているのが伺えました。

檜の柱を白木のまま掘立柱として直接地面に建て、萱を刈り取って乾燥させただけで、燻蒸等をしないで屋根材として使うという、伊勢神宮の建築物の基本的な成り立ちを前提に、一定の期間で建て替えることによってこれを永遠に残していく、また、それを行うための技術及び人材を継承していくという面で、二〇年ごとの式年遷宮という仕組みの偉大さと絶妙さを痛感させられた一日でした。

終わりに本調査の実施に当たり絶大なご尽力を頂いた、中村技術総監はじめ伊勢神宮の関係者の皆様に厚く感謝申し上げ、調査報告と致します。